

## 平成 26 年度 健康教室

期間：平成 26 年 5 月 13 日～11 月 11 日

場所：大阪河崎リハビリテーション大学  
河崎記念講堂、多機能実習室

統括責任者：佐竹 勝

副統括責任者：石川健二（文責）

運営担当者：高野珠栄子、上島 健、  
武井麻喜、平本憲二、  
嶋野広一、水野貴子

事務局：南川京子、中務朋子、田中一成

### 1. 健康教室の目的

地域住民が心身共に健康的な生活を送るため、健康に対する意識の醸成や集いの場を設けることで地域への貢献を果たす。

### 2. 平成 26 年度健康教室スケジュール

プログラム内容：今年度テーマは「地域で支えるこころのケア」と題して企画した（表）。

### 3. 結果

#### 第 1 回

実施日：平成 26 年 5 月 13 日（火）10:00～11:30

場所：河崎記念講堂

内容：あすなろ作業所の中山美佐恵先生が「こころのケア」をテーマに話され、現在 NPO 法人として活動されている作業所の事業内容を紹介していただいた。本作業所は主に精神病から寛解され、再び社会の一員とし

て活躍をめざしている方を対象としている。作業に取り組まれている対象者一人一人の作業場面から生活面まで幅広い視点で指導や支援されており、ちょっとした困りごとにも共に悩み考えながら上手に解決策へと導かれている、配慮と心遣いが伝わってくる講演であった。講演後も参加者から様々な質問や感想が寄せられた。今後も精神を患う者がいきいきと生活できる地域づくりが求められている。最後に年間スケジュールを配布して、今年度も継続的に参加していただけるよう伝えた。

#### 第 2 回

実施日：平成 26 年 6 月 10 日（火）10:00～11:30

場所：河崎記念講堂

内容：1 部は橋本教授による講座「運動しよう」、2 部は文部科学省新体力テスト実施要項に基づき体力測定（握力、上体起こし、長座位前屈、開眼片足立ち、10m 障害物歩行）を実施した。

#### 第 3 回

実施日：平成 26 年 7 月 8 日（火）10:00～11:30

場所：多機能実習室

内容：嶋野助教から陶芸の土練りと成形の仕方を学んだ。参加者全員が時間内に陶芸作品をつくり終えることができた。例年参加されている方から、「今年は何を作ろうか考え

（表）

| 開催 | 日 程       | ミニ講座（30 分）         | 講師                   | 活動内容（60 分）                      | 場所     |
|----|-----------|--------------------|----------------------|---------------------------------|--------|
| 1  | 5 月 13 日  | こころのケア             | あすなろ作業所<br>中山美佐恵 先生  | 貝塚市の精神科作業所の活動<br>精神科領域の病態・症状を解説 | 河崎記念講堂 |
| 2  | 6 月 10 日  | 運動しよう              | 理学療法学専攻<br>橋本雅至 教授   | 体力測定（身体機能）                      | 河崎記念講堂 |
| 3  | 7 月 8 日   | 陶芸に親しむ             | 作業療法学専攻<br>嶋野広一 助教   | 型造りから素焼きまで                      | 多機能実習室 |
| 4  | 9 月 9 日   | 加齢に伴う疾病の予防         | 理学療法学専攻<br>坪田裕司 教授   | 脳力測定（認知機能）                      | 河崎記念講堂 |
| 5  | 10 月 14 日 | 聴覚について             | 言語聴覚学専攻<br>馬屋原邦博 准教授 | 釉薬から本焼きまで                       | 多機能実習室 |
| 6  | 11 月 11 日 | ナトリウムとカリウム<br>年間総括 | 水間病院管理栄養士<br>田中遙佳 先生 | お楽しみ会・談話会                       | 多機能実習室 |

るのが楽しみです」との声も聞かれた。

#### 第4回

実施日：平成26年9月9日（火）10:00～11:30

場所：河崎記念講堂

内容：第1部は坪田教授による講座「加齢に伴う疾病の予防」、第2部はミニメンタルステート検査(MMSE)を使用したの脳力測定を実施した。脳力測定も毎年定例となっており、「今年も満点でした」と安堵の表情で話されている参加者もおられた。

#### 第5回

実施日：平成26年10月14日（火）10:00～11:30

場所：多機能実習室

内容：第1部のミニ講座では馬屋原准教授による講演「聴覚について」、2部の陶芸作品づくりでは、素焼き作品のバリ取り、撥水材加工、施釉を行った。その後、参加者全員が個々の作品を手にしたの記念撮影となった。

#### 第6回

実施日：平成26年11月11日（火）10:00～11:30

場所：多機能実習室

内容：毎年恒例の栄養の話として「ナトリウムとカリウム」をテーマに水間病院の田中管理栄養士による講演をいただいた。

体験として、参加者に果物と菓子を試食していただくなかで、講師からその成分の解説がなされた。ナトリウムとカリウムの関係の重要性を説くと共に、望ましいカロリーと塩分摂取の仕方をご教授いただいた。質疑応答も活発に行われ、参加者の栄養に対する興味関心が伺われた。その後、参加者へは陶芸作品やこれまでに実施した体力測定及び脳力測定の結果表をお渡しした。最後に佐竹室長から締め括りの挨拶が

なされた。

#### 4. まとめ

参加者アンケート結果では、本年も講座や陶芸、栄養等に好評の声が寄せられており、また本学への要望として、貝塚市にとって唯一の大学であるため地域にとって大きな役割を担ってほしい等の声も寄せられた。今後も広い視点から健康に関するテーマで教室を開催していきたいと考えている。今年度も参加者の皆さんから楽しかったとの声も聞かれ、無事に年間スケジュールを終了できたことに感謝申し上げる。

#### 平成26年度健康教室の参加人数

(平均年齢：72.9歳)

|     | 男性 | 女性 | 参加人数 |
|-----|----|----|------|
| 第1回 | 3  | 5  | 8    |
| 第2回 | 5  | 8  | 13   |
| 第3回 | 1  | 6  | 7    |
| 第4回 | 4  | 10 | 14   |
| 第5回 | 2  | 7  | 9    |
| 第6回 | 2  | 8  | 10   |
| 合計  | 17 | 44 | 61   |

#### 年間の地区別参加人数

| 堀 | 馬場 | 森 | 東山 | 清見 | 水間 | 岸和田 | 石才 | 和歌山 | 不明 | 計  |
|---|----|---|----|----|----|-----|----|-----|----|----|
| 1 | 22 | 3 | 1  | 6  | 7  | 3   | 11 | 3   | 4  | 61 |

#### アンケート結果

実施日：平成26年11月11日（回答者10名）

##### 1 ミニ講座について

Q1. 配布資料やミニ講座は日常生活で役にたちましたか。

・大いに役に立った(8) ・まあまあ(2) ・役に立ったとはいえない(0)

Q2. ミニ講座のうち特に役立ったテーマはどれですか(複数可)

・栄養のはなし(7) ・聴覚について(7) ・陶芸づくり(6) ・運動しよう(5)  
 ・加齢に伴う病気(5) ・こころのケア(4)

Q3. 今後のミニ講座でご希望のテーマがあれば教えてください。

- ・これまでどおりの講座をお願いします
- ・筋肉を強くする体操等
- ・老後を安心して暮らせるために何か役立てること
- ・手軽にできる健康料理レシピ

2 プログラム内容 今年度は「地域で支えるこころのケア」と題して企画しました。

Q4. どのプログラムがよかったですか(複数可)

- ・陶芸 (7) ・体力測定 (6) ・体操 (6) ・脳力測定 (5)
- ・「こころのケア」の講演 (1) ・その他 (0)

Q5 これからの健康教室に参加を希望しますか。

- ・できれば参加したい (8) ・テーマによる (2)
- ・見合わせたい (0)

3 本学について

Q6. 本大学のイメージについて教えてください(複数可)

- ・環境がよい (8) ・学生の態度がよい (6)
- ・設備が充実 (6) ・雰囲気がよい (5)
- ・教員の評判がよい (4) ・有名である (3)
- ・伝統がある (2) ・教育方針 (1)

Q7. 知り合いに本大学の入学をすすめたいですか

- ・是非とも勧めたい (7) ・微妙 (2) ・薦めるまでもない (0) ・未回答 (1)

Q8. 本大学に今後期待することについて、どのようなことでもお書き下さい。

- ・もっと回数をふやしてほしい
- ・健康教室にくるのが楽しみ (他1名)
- ・たくさんの地域交流を行っていただきたいと思います
- ・毎年参加させて頂き良い勉強になっています。

出来れば来年も勉強したいと思います

- ・月に一度一年を通して教えてほしい
- ・貝塚市にとって唯一の大学であること、地域にとって大きな役割を果たせられるのが大学
- ・夏休みの時期に小・中学生を対象とした教室をしていただきたい
- ・もっと認知症に関することを知りたい



体力測定



陶芸 (絵付け)



講座 (こころのケア)

## 平成 26 年度 地域の子育て支援

実施日：2014年7月6日、10月5日

(以上、実施済み)

2015年3月15日(実施予定)

場所：大阪河崎リハビリテーション大学

総括責任者：寺山久美子(副学長)

運営委員：木村秀生(文責)、野村和樹、

馬屋原邦博、平本憲二

高倉利恵

事務局担当：田中亜以子、向井沙弥、

中務朋子

### 1. 子育て支援室の公開講座の目的

- ① 本学の地域貢献活動の一環
- ② 障がい児、保護者の支援、相談
- ③ 小児領域における地域の関係諸機関、諸団体と本学との連携の強化をはかる。
- ④ 学生に対する小児領域の地域リハビリテーション教育実践の一環とする。

### 2. 対象

障がい児者、保護者、療育・教育・行政等の関係諸機関職員、一般市民、本学学生等

### 3. 平成 26 年度実施概要

#### 第1回

日時：2014年7月6日(日)13:00～15:00

場所：大学3号館6階 研修室

演題：「気持ちよく伸びよう：No pain, Yes gain—筋膜リリースの謎—」

講師：高倉利恵 本学理学療法学専攻 講師

参加者：学外：26名

学生：70名

託児：7名

学生ボランティア(会場設営、託児等)19名



第1回公開講座参加者のみなさん



講演中の実技指導

#### 第2回

日時：2014年10月5日(日)13:00～15:00

場所：本学1号館4階小講義室

後援：貝塚市教育委員会

演題：「気になる子どもに対する支援方法 作業療法士の視点」

講師：伊藤直子 先生

訪問看護ステーション かなえるリンク

作業療法士

参加者：学外：30名

託児：7名

学生ボランティア(会場設営・託児等)19名

#### 第3回(実施予定)

日時：2015年3月15日(日)13:00～15:00

場所：本学1号館4階小講義室

後援：貝塚市教育委員会

演題：「身体の動きが不自由な子ども達へのコミュニケーション支援」

講師：木村秀生

本学言語聴覚療法学専攻 教授

#### 4. 今年度のまとめ

- ① 昨年度に引き続き、毎回 30 名前後の学外からの参加があった。本公開講座が小児領域での本学の取り組みとして地域に定着しつつあることを伺わせる。和歌山市を中心に和歌山県北部からの参加者も漸増傾向にあり、全体の参加者増加と共に今後も拡げていきたい点である。
- ② 地域の障害児保護者団体から本公開講座を契機に、本学教員、学生との交流や本学施設利用等の要望があった。地域貢献を更に進めるという立場から具体化を検討したいと考えている。
- ③ 本学の授業の一環としても開催された講座も

あり、学生が多数参加した。実際の治療場面を見学できる貴重な機会となった。また、学生ボランティアの参加が今年度も毎回 20 名近くあった。以上、小児領域における本学学生教育に果たす役割も大きくなりつつある。学生からも子ども達とじっくり接する機会として貴重な体験との感想が多い。本講座の託児ボランティアが小児領域のセラピストをめざすきっかけになったという学生も存在する。講演中の託児室の取り組みはその内容と共に講演会参加の保護者様からも好評である。教育の一環として小児領域のボランティア集団として引き続き育てていくことができると考えている。

**平成 26 年度  
阪和地域リハビリテーション研究会**

実施日：平成 26 年 7 月 12 日、11 月 15 日  
 場所：大阪河崎リハビリテーション大学  
 統括責任者：寺山久美子（副学長）  
 副統括責任者：阿部真二（河崎病院）  
                   古井透（本学教授）  
 アドバイザー：村川浩一（本学教授）  
 運営委員：山本泰史、末継真子、渡邊拓治、  
             南川真人、久利彩子、稲葉敏樹、  
             勝山隆、平本憲二、石川健二  
 事務局担当：中務朋子、田中一成

地域包括ケア時代の地域リハビリテーションの視座

大阪河崎リハビリテーション大学 阪和地域リハビリテーション研究会は 2007 年から現場のスピーカーから今の実情を学ぶ「勉強会」と全国的な取り組みや新しい世の中の動きについて「研究会」で情報提供・地域啓発も行い、本学の周りで働いたり、学んだり、生活している人々を巻き込んできた。

前年度より新たに村川浩一教授をアドバイザーに迎え、平成 26 年度の研究会・勉強会は、地域リハビリテーション（以下地域リハ）に取り組む先進地域・関係機関から学ぶという視点に立って、各方面の専門家・現場実践者にご来学いただき、検討を深めてきた。地域リハシステム作りの実践に精通し現場の視点、行政施策の視点、利用者の視点、臨床家の視点をもつ講

師による勉強会 1 回と、地域の拠点施設を運営しながらリハビリテーションシステムの未来を語る外来講師による研究会 1 回の 2 回の会議を開催した。これら地域啓発事業での 2 回の会議の期日・講師・題目・参加者の概略を下表に示す。

1. 地域リハシステム構築（萩原 利昌 先生）  
勉強会での議論（平成 26 年 7 月 12 日開催）



今回は、神奈川県川崎市（政令市）で地域リハの具体的機関として同市北部地域リハセンターの開設にご尽力され、その初代所長・理学療法士として活躍

され、現在は市の障害者施策の責任者である萩原利昌先生（川崎市障害保健福祉部長）より、地域リハをめぐる現場の視点、行政施策の視点、利用者の視点、臨床家の視点に立った講演をいただいた。萩原先生が地域リハへの取り組みを開始した、30 年前は、小児リハが諸外国から導入され、病院リハもまだまだ発展途上の時期であった。現在では、高齢者の地域リハでは、病院や介護関連施設に閉じこもったサービスではなく、在宅での生活を視野においたサービスを展開していくことが重要となっている。多様な地域環境に在住される多様な障がいをもった方々を、地域で支えるための、具体的な方策を教えていただいた。

会場からの「地域リハについて、医療職がよ

| 開催日                  | 講師   | 題目                               | 参加者<br>(うち外部参加) |
|----------------------|--|----------------------------------|-----------------|
| 平成 26 年<br>7/12 (土)  | 萩原 利昌 先生<br>(川崎市障害保健福祉部長 理学療法士)  | 川崎市における地域リハビリテーションセンターシステムの構築    | 77 (48)         |
| 平成 26 年<br>11/15 (土) | 大河内 二郎 先生<br>(全国老人保健施設協会 研修委員長<br>ICF/WHO 委員 介護老人保健施設 竜<br>間之郷 施設長 医師) | 拠点施設＝老健施設を核とした地域リハビリテーションとケアサービス | 108 (14)        |

く理解していないのではないかと思うことがあるのですが。伝え方や伝える人はどうあるべきでしょうか？」との質問に「医療職の経験はとても重要で、その経験を地域でいかす地域リハサービスの職場や、人が必要と思います。ICFの構造で利用者さんを支援しようとする動きも出てきています。お坊さんは、地域に根ざしてその責任を果たされておられますが、このような活動を参考に理解を深めることも良いと思います。」と示唆に富んだお答えをいただいた。



## 2. 老健発の地域リハ(大河内 二郎 先生) 研究会での講演の概略(平成 26 年 11 月 15 日開催)



ICF/WHO 委員もつとめ、全国老人保健施設協会 R4 システムを理論的に牽引する大河内 二郎 先生から老人保健施設

を核としたリハビリテーションの展開について講演いただいた。

地域包括ケアは 2025 年を目途にどのようなケアが必要とされるのか想定し、高齢者が地域においてどのような生活ができるかを想定したサービスの充実をはかることを目的とする。

老人保健施設とは地域に戻るための施設であり、在宅復帰に繋げる病院から在宅へ移る重要な橋渡しのはずであった。しかし、現状での在宅復帰加算を算定している施設は 30%、在宅復帰型老人保健施設は全体の約 5 分の 2 である。介護老人保健施設の機能として 6 類型に分類さ

れるが、特に老健の特性を象徴する類型として、「在宅復帰強化型」がある。老健は本来なら在宅復帰へむけ入所時及び退所前に訪問調査を必要とするはずが、利用実態はその殆どが特別養護老人ホームの入所待ち施設となっているのが現状である。在宅復帰率の類型ごとの分布では、在宅復帰強化型は 4 割程度にとどまっている。

看取り型や認知症強化型での割合は 50% 程度である。他にアウトリーチ強化型・医療強化型・地域包括支援強化型がある。今後それらの動向は「地域における介護老人保健施設の役割に関する調査研究事業」で分析されていく方向である。

今般の診療報酬改定での注目は「徹底した在宅志向」「短期集中型リハが医療でも算定可能」となったことである。認知症患者リハ科が新設され、7 対 1 一般病棟入院基本料の在宅復帰要件で在宅強化型老健も対象となる。回復期リハにおけるクリニカルパスが老健も対象となり、我々の施設では入院時訪問指導加算で病院に入院する前から在宅訪問をするとともに、退院前にも在宅訪問を実施している。

在宅復帰：平成 23 年 10 月以降国土交通省から補助金を受け新設された「サービス付き高齢者住宅」が急増しているが、結局は在宅から諸施設への入所である。そこから再度在宅復帰できる施設は老健だけで、他は在宅復帰を想定していない。

老健で在宅復帰をめざせば経営はもつが、でなければ悪化する。全国調査の主成分分析では医療軸と在宅軸を基軸とした。

多職種協働：老健では様々な職種が一体的にサービスを提供してきたノウハウを活用できる。リハ職員が充実し機能的に在宅復帰を担ってきたため、それを活用できる。例えば、徘徊の概念を覆す思考として“徘徊ではなく廊下の歩行である”というリハの視点が有効であるが、これは老健なら可能である。

ターミナルケアを老健が行うメリットが注目され、認知症リハ・看取り・医療特化型の機能の量と質の向上が求められている。より自然な環境でなじみの関係にある職員や家族に見守られ看取られることが可能で、コストも軽減できるからである。様々なレクリエーション、行事などの充実により本人のQOLを考慮したケアが期待できる。

在宅復帰強化型老健での在宅復帰率は、認知症の割合に関わらずその在宅復帰率が高い傾向で、介護保険への移行をスムーズに定着させる側面もある。



認知症：生活機能の改善が見込まれる認知症者に対して認知症短期集中リハビリテーションと記憶・動作活動を組み合わせた20分以上の

プログラムを3か月間個別に週3日実施している。これまでの先行研究において中核症状・周辺症状ともに改善効果が示されている。介護予防サロンへ参加することで、生きがい、自己実現への取り組みにつながる実例もある。

老健におけるアウトリーチ機能の伸び率が高く、定期巡回や随時適切サービスの提供を実施しています。専門職員を配置すれば老健からも訪問看護・介護が可能で、ハブ機能としての役割を担えます。また今後、訪問診療の提供も含め充実が図られるであろう。

参加者より「入所時在宅復帰をめざしたケースの内どの程度復帰できているか？」との質問に「現状で、8割は復帰させている。その手法として短期在宅（2週間）として復帰できているケースもある。様々なバリエーションを考慮することが大切。」と答えられ、会場から感嘆の声がもれた。

以上から、今年度も地域や外部からの参加者は着実に増え、障害者・高齢者・ケアをめぐる既成概念に挑戦する地域リハ活動の方向性において、本会や大学の役割はますます重要となりつつあることを実感した。